

<研究成果の紹介>

コンテナ栽培における樹種別適正な用土

花植木センター

1. 成果の内容

コンテナ栽培は、出荷時に根を切らないため、四季を問わずに植栽が可能として注目されています。しかし、コンテナ規格は根域が制限されるため用土の条件によって生育に差が現れやすくなります。

このため、本県で生産されている主要な樹種を用い、基本土壌（黒ボク、赤土、山砂）を2に対し、ピートモス1、パーライト1の容積比率に配合した用土を用い、生育調査を行いました。

その結果、基本土壌の違いによって樹高増加比、樹容積及び株重量等の生育に差が現れる樹種、そうでない樹種が明らかになりました。

一般的に、黒ボク及び赤土土壌を用いた用土は、比較的生育が優れる傾向を示しましたが、現地での利用の多い山砂用土で、特にシラカシ、オタフクナンテン、三重サツキ、カンツバキ、カナメモチ、コクチナシ、アベリアで生育が劣る傾向にあるため注意が必要です。また、その他の供試された樹種についても生育促進を期待する場合、より適正な基本土壌の選定が必要と思われます。

2. 技術の適応効果と適応範囲

本県におけるコンテナ生産場面で、生産量の多い樹種について、用土に用いる基本土壌の選定に利用できる。

県下のコンテナ生産農家に適応できます。

3. 普及・利用上の留意点

容器サイズは、日本植木協会規格の10.5～15cmポットを使用しています。

土壌によってかん水条件が同一ではない場合が多いので、土壌の異なる用土が混在しているほ場では、自動かん水には注意が必要です。

（鎌田正行）



表1 供試樹種の基本土壌別生育評価 - 1

供試樹種	赤土	山砂	黒ボク
シラカシ			
ゴールドライダ			
オタフクナンテン			
三重サツキ			
ボックスウッド			
ヒパリカム・ヒデコト			

注) 評価基準 優 良 やや劣る

表2 供試樹種の基本土壌別生育評価 - 2

供試樹種	赤土	山砂	黒ボク
カンツバキ			
カナメモチ			
キンメツゲ			
シャリンバイ			
ハマヒサカキ			
コクチナシ			
アベリア			

注) 評価基準 優 良 やや劣る